

「自律的なキャリア形成に向けた発見を促す仕組みづくり」

政策・メディア研究科修士1年 井庭崇研究室

小原和也 oharak@sfc.keio.ac.jp

研究概要

ひとの生き方全体、つまり職業のみにとどまらないキャリアの在り方を考えたとき、自分で自分の「働き方・生き方」をつくること、つまり「キャリア自律」(花田,2003)を果たすことが人生においては重要となる。では、その創造的で自律的なキャリア形成はいかにして可能になるのだろうか。本研究は、そのような問題意識の中でひとが創造的に自分で自分の「働き方・生き方」をデザインするための発想・支援の仕組みの構築を目指すものである。キャリアデザイン・パターンとは、ひとがキャリアを創造・実践する上での経験則を「パターン」という単位にまとめ、体系化したことばの体系である。キャリアデザイン・パターンの発想のもとにあるパターン・ランゲージとは、本来建築デザインにおける環境設計の方法論として提唱されたものが、ソフトウェア開発の方法論に適用され、人間活動のデザイン支援にも応用された。(井庭,古川園,2012)このようなパターン・ランゲージの展開から発想した研究が本研究の理論的枠組みとなっている。パターン・ランゲージとは、ある特定の領域における「デザインの知」(design knowledge; 問題発見+問題解決の知)が記述された言語である。(井庭,2011)具体的には、どのような「状況」(context)で、どのような「問題」(problem)が生じやすく、それをどう「解決」(solution)すればよいか記述されている。そしてその創造・実践の経験則を「パターン」という単位としてまとめあげる。パターン・ランゲージは、ある特定の対象における全体像を考えたとき、その対象における理想を実現するために必要なコツを、周囲の参加を引き起こし、自分たちの状況に合わせてながら実行できるように、小さな単位で言語化されている。

I 進捗

前回の報告からの進捗を以下に示す。

- ①「キャリアデザイン・パターン」を活用した自律的なキャリア形成に向けた発見を促すワークショップの作成
- ②東京国際大学「キャリアプランニングI」におけるワークショップの開催(全4回、計300人対象)
- ③ワークショップの効果分析に向けたリサーチ

II 研究概要

(1)『キャリアをデザインするための“発想”』

ひとの生き方全体、職業のみにとどまらないキャリアの在り方を考えたとき、自分で自分の「働き方・生き方」をつくること、つまり「キャリア自律」(花田,2003)を果たすことが人生においては重要となる。では、その自律的なキャリア形成はいかにして可能になるのだろうか。本研究は、そのような問題意識の中で、ひとが自分で自分の「働き方・生き方」をデザインするための発想法の記述、それに基づくキャリア形成支援の仕組みの構築を目指す。キャリアデザイン・パターンのもとの考えにあるパターン・ランゲージとは、ある特定の対象の全体像を考えたとき、その対象における理想的な状態を実現するために必要な観点を、周囲の参加を引き起こし、自分たちの状況に合わせてながら実行できるように、小さな単位で言語化されている。つまり、キャリアデザイン・パターンは、自分自身のキャリアをデザインするために必要な発想法が記述された言語である。

本研究では、キャリアデザイン・パターンのワー

クショップなどでの活用を通して、キャリアデザイン・パターンが、人がキャリア形成を行う上で必要となる発想・発見を促すために有効であることを検証していく。具体的には、年内に4回行う、東京国際大学での「キャリアデザイン・パターン」を用いたワークショップを分析対象とし、本ワークショップにおいて、キャリアデザイン・パターンを活用したワークショップを人の自律的なキャリア形成に向けた発見を促す有効な手段であることを提案する。

(2)キャリアデザイン・パターンとは

キャリアデザイン・パターンとは、自身が卒業研究にて法政大学キャリアデザイン学部の学生13名によって作成し、その後私の手によって記述が改良された、大学生が自分らしいキャリアを描くために必要な発想方法を記述したことばである。メンバー自身のこれまでの経験的な側面を「パターン」という小さな単位に統合し、そのパターンひとつひとつに対して状況、問題、解決の形式で記述し、作成した。いわばこの13名のキャリア形成に関する経験が統合された生き方の方法を考えるための仮説とも言えるようなパターン・ランゲージを用いて、大学生が自分自身のキャリア形成を考えるメディアとして機能していることを、ワークショップを通して実証する。事例としては、東京国際大学で行う一年生向けのキャリアデザインワークショップを事例とする。ここでのワークショップにおいて、作成したキャリアデザイン・パターンが、いかに対象である学生のキャリア形成に関する認識の変化を生じさせているのかを探究する。

(3)自律的なキャリア形成に向けた発見を促す『キャリアデザイン・パターン語りの対話ワークショップ』

ワークショップでは、ひとつひとつのパターンを自分の経験の有無によって評価する。全てのパターンを1～5段階で評価させた後、そのパターンの中で、「1・2」の評価を下したパターンの中から自分自身のキャリアに「取り入れたい」パターンを選んでもらう。その後、ワークショップでは、自分が取り入れたいパターンを、他の参加者の中から経験している人を探し出して、その人からそのパターンの実践知を聴き出す。ワークショップ後、個人ワークによって「自分が一番取り入れたいパターン」を自分のキャリアに取り入れることを考えるワークを行う。このワークでは、対話のワークショップを通して明るくなった自分自身の抱えている問題を発見につなげ、その解決を探究する。このワークでは、白紙の紙を配布し、ワークショップを通して「発見」したことを可視化させ、自分の「したいこと」とその中で自分が「できること」に対しての発見を促すワークを行う。

「キャリアデザイン・パターン」を用いた語りの対話ワークショップ@東京国際大学

11/22 (金) 9:10～

11/26 (火) 10:50～

12/20 (金) 9:10～

12/24 (火) 10:50～



(4)今後の予定

ワークショップで行った事前と事後に、自分自身の現状のキャリア形成に関する認識を問う質問紙調査を実施した。一連のワークショップにおいて、キャリア形成に対する新しい「発想」や「発見」があったのかどうかを分析する。そして、後半の白紙を活用した「自分が一番取り入れたいパターン」の探究をとおして、自分の「したいこと」とその中で自分が「できること」の発見を促すワークシートの回収も行い、その分析に向けたリサーチを行っていく。

参考文献

「創造社会を支えるメディアとしてのパターン・ランゲージ」

(井庭崇、古川園智樹『情報管理』 Vol.55 No.12,2012)

「パターン・ランゲージ 3.0: 新しい対象 × 新しい使い方 × 新しい作り方」(井庭崇『情報処理』 Vol.52 No.9,2011)

「キャリア自律を考える:日本におけるキャリア自律の展開」(花田光世、宮地夕紀子『CRL REPORT』 No.1,2003)